資料２－２

（令和6年度第3回協働まちづくり推進委員会資料）

令和６年度「市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査」（市政モニター）結果概要について

１　調査目的

仙台市では、平成 27 年７月に「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」を施行し、市民活動を行いやすくする環境づくりや、さまざまなまちづくりに携わる団体（地域団体や市民活動団体、学校、企業、行政）等が連携、協力して活動に取り組めるよう、各種事業を進めてきた。今後、市民活動や協働によるまちづくりをよりいっそう進めていくために、現状及び課題の把握を目的として調査を実施した。

２　調査の方法

（１）調査対象　令和６年度市政モニター（※）399 名（調査時点）

※18 歳以上の市民の方 400 名を公募により委嘱。市政の課題等に関するアンケートを実施して市民の意見を伺い、施策の企画や行政運営上の基礎資料として活用している。結果については仙台市ホームページで公表。

（２）調査時期　令和６年 11 月

（３）調査方法　無記名式調査（郵送モニター122 名、ネットモニター277 名）

３　調査項目（全 19 問）

（１）回答者の属性について（問１～４）

（２）個人と市民活動との関わりについて（（３）に該当するものを除く）（問５～７）

（３）団体のメンバーや役員としての関わりについて（問８～11）

（４）団体同士の協働について（問 12～15）

（５）ふだん利用している情報媒体について（問 16・17）

（６）若者によるまちづくりについて（問 18）

（７）その他のご意見・ご提案について（問 19、自由記述）

４　回収結果

有効回答数（率）　337 名（84.5%）（郵送モニター117 名、ネットモニター220 名）

５　報告書（資料３－２）

２月に仙台市ホームページ（調査広報（市政アンケートモニター））にて公表するほか、市政モニターへ送付予定。

６　前回調査（令和元年度、n＝189）からの主な経年変化

問８：回答者がメンバーや役員として運営に関わった経験の有無

選択肢	令和６年度	令和元年度
関わった経験があり、今後も関わりたいと思っている	26.4%	38.1%
関わった経験はあるが、今後は関わりたいと思わない	18.7%	（※１）
関わった経験はないが、今後は関わりたいと思っている	19.3%	61.9%
関わった経験がなく、今後も関わりたいと思わない	35.0%	（※２）
無回答	0.6%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

※１：「市民活動に参加したことがある」と回答した人の割合

※２：「市民活動に参加したことがない」と回答した人の割合

問 10：市民活動や地域活動の果たす役割の重要度に対する認識

選択肢	令和６年度	令和元年度
そう思う	38.9%	45.5%
どちらかと言えばそう思う	38.3%	43.4%
どちらでもない	12.5%	7.9%
どちらかと言えばそう思わない	2.7%	2.1%
そう思わない	1.8%	1.1%
無回答	5.9%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

問 12：回答者が所属する団体が他の団体や行政と連携・協力して取り組んだ経験の有無

選択肢	令和６年度	令和元年度
取り組んだ経験があり、今後も取り組みたいと思っている	30.6%	28.0%
取り組んだ経験はあるが、今後は取り組みたいと思わない	8.6%	（※３）
取り組んだ経験はないが、今後は取り組みたいと思っている	11.9%	11.6%
取り組んだ経験がなく、今後も取り組みたいと思わない	16.6%	42.3%
団体に所属していない	30.9%	18.0%
無回答	1.5%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

※３：「他の団体と連携・協力して取り組んだ経験がある」と回答した人の割合

問 14：地域団体や市民活動団体、学校、企業、行政等が連携・協力して取り組むことの重要度に対する認識

選択肢	令和６年度	令和元年度
そう思う	47.8%	54.0%
どちらかと言えばそう思う	38.3%	36.0%
どちらでもない・わからない	8.0%	6.9%
どちらかと言えばそう思わない	3.0%	2.6%
そう思わない	0.6%	0.5%
無回答	2.4%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

7　その他のご意見・ご提案（問 19 の自由記述のうち、主な回答の趣旨をまとめたもの）

（１）個人と市民活動との関わりに関するもの

・市民活動へ参加をしたいと思っていても参加の仕方がわからない。
・市民活動への参加の仕方や、活動内容のわかる情報がほしい。
・市民活動へ気軽に参加ができると良い。

（２）団体のメンバーや役員としての関わりに関するもの

・異なる世代・立場・意見がある中で、団体活動をすることが難しい。
・団体活動を継続するためには、違いを受け入れながら活動していく必要がある。
・適切な役割分担や、関わる人の負担軽減が必要である。

（３）団体同士の協働に関するもの

・様々な主体が一緒に活動することで、交流が生まれてより良いまちづくりができる。
・協働によるまちづくりや地域連携は大切である。

（４）若者によるまちづくりに関するもの

・若者が積極的に活動へ参加できる仕組みづくりが必要である。
・若者が協力できる可能性を高めていく必要がある。
・高齢化が進んでいる中で、若者への期待は大きい。

（５）市民活動や協働についてのご意見、その他のご意見

・地域へ愛着を持つことが重要である。
・協働する中で理解し合う機会が増えると良い。
・行政の協力や連携があると活動しやすい。